

WHO サブタイプ¹別にみた原爆被爆者のリンパ腫罹患: 1950-1994

血液のがんの一種であるリンパ腫は、ホジキンリンパ腫と非ホジキンリンパ腫に大きく分けられ、それぞれのリンパ腫はさらに細かなサブタイプに分類されます。日本人のリンパ腫の9割以上が後者の非ホジキンリンパ腫です。

放射線被ばくとリンパ腫との関連性についての裏付けはこれまでの報告では限られており、一致していません。そこで、この研究では、原爆被爆者の寿命調査 (LSS)² 集団において 1950 年から 1994 年までに診断されたリンパ腫を、WHO サブタイプ (組織型) 別に詳しく再分類し、放射線被ばくと主要なサブタイプとの関連性について統計解析手法を用いて評価しました。

その結果、これまでと同様に LSS の男性については被ばく線量に応じて、非ホジキンリンパ腫の罹患率が高くなっていましたが、女性ではこの傾向は認められませんでした。罹患率と被ばく線量との関係については、男性において、進行が速いサブタイプの一つとされる前駆リンパ系腫瘍で大きな罹患率の上昇がみられました。その他の主要なサブタイプの罹患率と被ばく線量との関連性はほとんどありませんでした。

これらのデータから、リンパ腫全体について見られていた放射線被ばくとの関連性は、主に前駆リンパ系腫瘍についてのものであることが示唆されました。

【注釈】

¹WHO サブタイプ :

World Health Organization「世界保健機関」が国際的に統一した基準で定めたがんの詳しい分類方法で、がん細胞が持つ性質 (細胞などの形とたんぱくの発現) でがんを分類しています。

²寿命調査 (LSS) :

原爆放射線が死因及びがん発生に与える長期的影響の調査を主な目的としています。1950 年の国勢調査の際に、原爆当時に広島・長崎にいたことが確認された人の中から選ばれた約 94,000 人の被爆者と、約 27,000 人の原爆当時に市内にいなかった人から成る約 12 万人を追跡調査しています。

doi.org/10.1182/blood.2020010475

*doi (digital object identifiers) とは、ほとんどのデジタル情報に与えられた、コンテンツ (論文や作品等) 独自の不変番号で、インターネットの検索を通じてオンライン資料を特定するために用いられます。

本資料は、専門家でない方向けに出来るだけわかりやすく解説することを最優先しています。そのため専門的な内容は割愛しており、論文内容を完全に再現しているものではありません。より詳しい内容は専門の学術誌に掲載された論文をご覧ください。